

1.99

東京都の1世帯当たりの人数が、1.99人と2人を下回ったことが明らかとなりました。

これは、東京都が住民基本台帳を基に今年1月時点の都内の人口をまとめたもので、それによると、人口は1268万6067人で、前の年と比べて0.31%増え、世帯の数も過去最高の636万世帯余りとなっています。その一方で、1世帯当たりの人数は1.99人と、東京都が昭和32年に調査を始めて以来、初めて2人を下回ったことが分かったというものです。

全国の1世帯当たりの人数は、昨年3月31日時点で平均2.36（総務省調べ）であり、2.0を下回るのは都道府県では東京都が初めてとなります。

この結果に石原東京都知事は相当ショックを受けているようで、「家族というものがバラバラになりきった感じだ。高齢者を親族がどうみとっているのか。」と述べたと伝えられていますが、少子高齢化、核家族化が進んでいる中、世帯人口が2を切るのは時間の問題だったといえます。

東京都では、1人暮らしの高齢者が増加していることや、若い世代を中心に結婚せずに独身で暮らす傾向が都市部で強まっていることが背景にあると分析していますが、こうした傾向は東京都のみならず他道府県においても同様であり、早晚東京都以外でも世帯人口が2を切るところが出てくるものと思います。

勿論、こうした世帯人口の減少は北海道も例外ではありません。下表は、北海道における住民基本台帳人口及び世帯数の変化を表していますが、これを見ても分かるように、北海道においても1世帯当たりの人口が確実に減少しつつあり、やがて単身世帯が世帯の中心を占めるようになるでしょう。

	人 口	世帯数	世帯人口
H23. 3	5,498,916	2,670,572	2.06
	4,438,314	2,195,120	2.02
H22. 1	5,520,894	2,654,310	2.08
	4,447,771	2,179,014	2.04
H12. 1	5,724,641	2,422,622	2.36
	2,422,622	1,912,033	2.30

（注）表下段は、市部の数値

国においては、これまでも少子化対策を講じてきていますが、具体的な成果には結び付いていません。また、地方では働く場所が限られており、どうしても若い人が故郷を離れざるを得ない状況もあります。親と子が共に暮らしたくてもそうすることのできない現実が一方にはあります。

結婚に関心を持たず一人暮らしをエンジョイしている若者が沢山いますし、元気に自立して生活しているお年寄りも増えています。それは、日本社会が成熟し、多様な生き方が可能になったということでもあります。しかし私は、積極的に単身生活を選択するというより、むしろ、止むを得ず単身生活を選択している人の方が多いのではないかと考えています。

石原都知事が「高齢者を親族がどうみとっているのか」と嘆く気持ちは分からなくはありませんが、現実の問題は、一人ひとりの気持ちでは解決の付かない状況にあることを、認識しておくべきではないでしょうか。

最近、連日のように報道されている「孤独死（孤立死）」もまた、単身世帯が増えていることと無縁ではありません。少子高齢化が進み、単身世帯が増える中、地域の中で人と人の繋がる力が脆弱になっていることも、孤独死（孤立死）が後を絶たない背景の一つと考えられます。

単身世帯が標準世帯となりつつある今、みんなが暮らしやすい社会となるために、如何に地域のコミュニティを再構築するかが問われているのだと思います。（塾頭 吉田 洋一）